

令和2年度 学校だより



令和2年4月21日（火）

御前崎市立第一小学校

学校教育目標

花いっぱい 自分 友だち 御一小

E-mail:

4月 - ②号

onichi@ed.city.omaezaki.shizuoka.jp

学校再開、授業再開が楽しみに becoming 今を生きる

御一小応援団の皆様、いかがお過ごしですか。学校は昨日まで閑散としていて、大人の声だけが校舎に響いていました。

本日4月21日の臨時登校が実施できたのは、子どもの安全を第一に考え、御理解御支援くださっている保護者の皆様や地域の皆様のおかげであると、心から感謝いたします。

休校措置入りの前日4月10日のことです。下校指導で正門に立っていると、2年生や3年生がやって来て「校長先生、また学校に来られるよね、また会えるよね。」と心配そうに話しかけてきました。御家庭での日々の様子や担任からの指導により、3月の休校とは明らかに違った様子がありました。「やったー、今日からゲーム三昧だ。」と言っていた3月の雰囲気は全くありません。不安いっぱいに戻る子どもたちに私は、「大丈夫、大丈夫。また元気に登校しようね。」と笑顔で励ましました。

私たち日本人は大きな災害を何度も経験しながら、立ち上がってきました。人間一人の力は小さいけれど強い。何より、小さな力を合わせて難題に立ち向かうことができる。私は、いつも人の持つこのような力を信じています。今まさにその時であると感じています。

ある調査によると、現在休校中の子どもたちの一番の心配事は「家族とずっと一緒にいるストレス」だそうです。3月の調査では、「友達と一緒にいられないこと」がダントツ1位の心配事でしたが、これは、かなり数値も落ちて3位になりました。社会の中でも家庭でも大人も子どもも疲れ果てているのが現状です。県男女共同参画支援センター「あざれあ」の今月の電話相談数は、やはり保護者からのものが多く、休校で家にいる子どもとの関係についての相談が第1位でした。一番安心できる家族が心配な状況になっていることに不安を感じています。皆さんの御家庭の様子はいかがですか。子どもたちへのイライラが増えていませんか。普段より発する言葉がきつくなっていますか。子どもたちも大人も疲れていませんか。

苦しい中ですが、今頑張っている子どもたちや大人の皆さんの感染防止策への対応が、大切な家族や社会の役に立っていることは事実です。今の我慢が家族や社会の幸せにつながっていることは間違いないのです。

ピンチの今こそ、「自分から みんなで」を実現させていきたい。予測困難な未来に向かって、おかれた環境下で最善の判断ができる人に子どもたちを育てながら、私たち大人も自分を育てていきたいと考えます。みんなで頑張りましょう！再開を心待ちにして！（校長増田久美子）

